

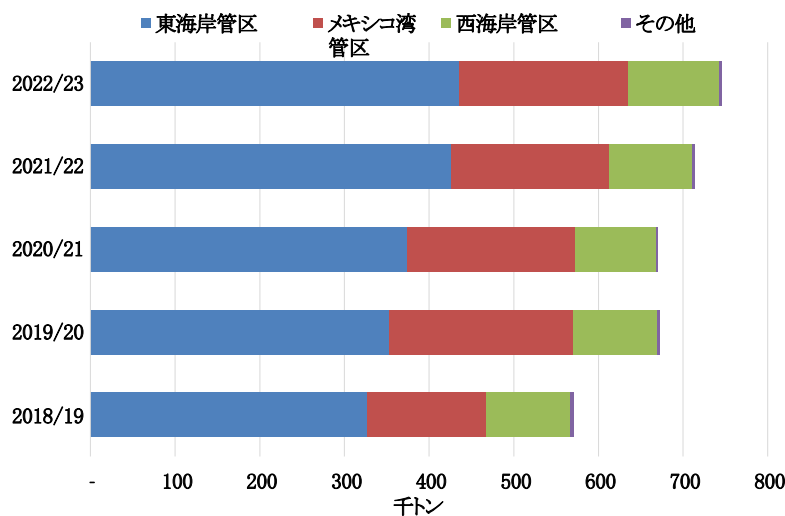
世界の落葉果実事情と市場動向(リンゴ、ブドウ、ナシ)

米国農務省海外農業局 2023年12月12日

パナマ運河の制約は米国の生食用ブドウ輸入に影響を与える可能性

深刻な干ばつによってパナマ運河水域の淡水の水位が低下し*、運河の通行量に影響を与えている。10月の降水量を見ると2023年は1950年以来最も少なく、2023年はこれまでのところ1950年に次いで2番目に乾燥した年となっている。その結果、パナマ運河庁は運河の毎日の通過船舶数を制限し、運河を利用する船舶の待ち時間が長くなっている。このことは、米国東海岸向けの生鮮果実・野菜、特に生食用ブドウに量と質の両面で影響を与える可能性がある。(※訳注：パナマ運河の中間部は人造の淡水湖です。)

米国の生食用ブドウ輸入 関税管区別



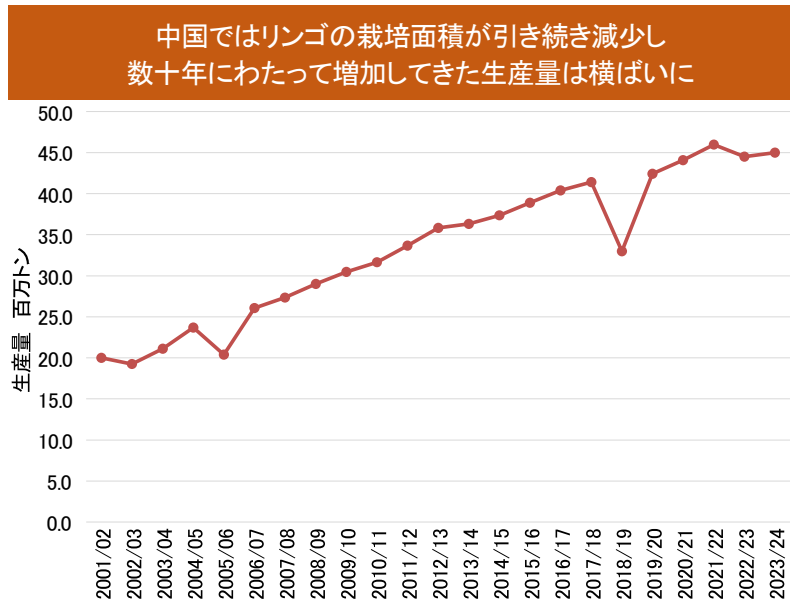
米国では年間平均130万トンの生食用ブドウが消費されており、輸入が半分強を占めている。主な供給国はペルー、チリ、メキシコで、これらを合わせると総輸入量の98%を占める。メキシコからの貨物はほとんどすべてがアリゾナ州とテキサス州を経由して陸路で米国に入るが、チリとペルーからの貨物の大部分は東海岸の港に入り、最も速く最も経済的な輸送経路はパナマ運河を通ることである。

平均して、米国はチリから約27万トンの生食用ブドウを輸入しており、荷の75%は東海岸の港を経由して米国に輸入されている。ペルー産については平均23万トンで、東海岸の港湾経由は85%とさらに重要である。フィラデルフィア港は両国にとって最大の仕向地であり、東海岸向けの出荷の90%以上を占めている。パナマ運河の輸送能力が制限される場合、荷主は代替案を模索する必要があるかもしれない。それには西海岸の港への輸送が含まれるだろう。これは、すでにかかなりの量がカリフォルニア州のロサンゼルス港を経由して西海岸に入っているためである。船はホーン岬(南米大陸の南端)を迂回することもできる。ただし、これらの、またはその他の代替経路を使用すると輸送時間が長くなり、大切な輸入後の棚持ちが悪くなり、果実の品質、ひいては売上に影響を与える可能性がある。チリとペルーからの輸入は主として12月から4月にかけて行われるため、パナマ運河の規制が東海岸の生食用ブドウの輸入に影響を与えるかどうかはまだ見守る必要がある。南半球の輸出国からのパナマ運河経由の出荷量が通常どおりであると仮定すると、2023/24年度の米国の輸入量は、消費者の需要が持続していることから、微増の76万トンと予測される。

<生鮮りんご>

世界の2023/24年度のリンゴ生産量は、中国、南アフリカ、米国での供給量の回復が欧州連合(EU)とトルコでの減収を上回り、17万5千トン増の8,310万トンと予測される。輸出量は、主に米国、イラン、中国からの出荷量の増加により、63万2千トン増の610万トンと予測される。

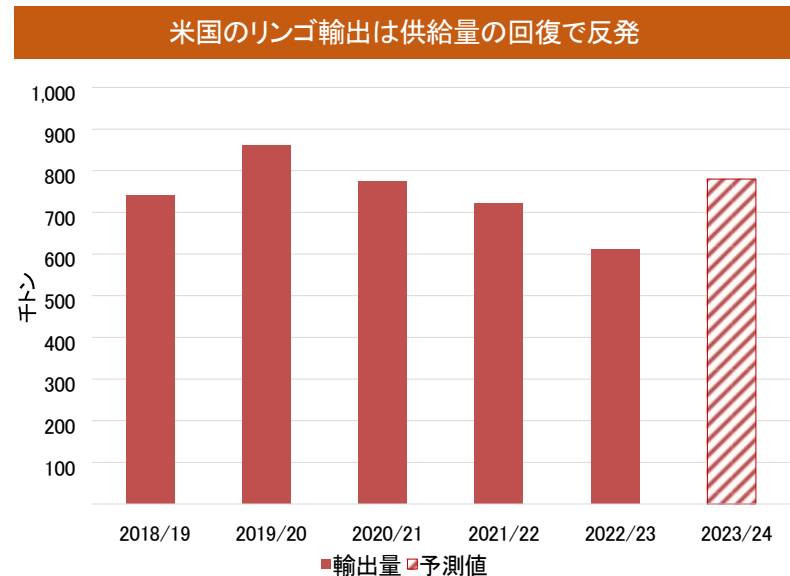
中国の生産量は、山西省、河南省、河北省、遼寧省での増加が、山東省と甘肅省での降霜と気温に関連した減収を上回るため、50万トン増の4,500万トンと予測される。特定の農地(政府の規則で定義される)を穀物、綿花、油糧種子、砂糖、野菜及び飼料の生産に使用することを奨励または義務付ける政策(FAS/GAIN レポート [CH2023-0103](#) を参照)により、栽培面積は引き続き減少する。しかし、生産者は既存の果樹園での生産を最適化するよう取り組んでおり、現在、リンゴの栽培面積の約20%が矮性の果樹の密植栽培であると推定される。輸出量は、供給量の増加によりアジア市場への出荷が増加するため、7万1千トン増の84万5千トンと予想される。輸入量は、ニュージーランドからの出荷が2023年2月のサイクロンガブリエルの被害により減少するため、1万5千トン減の8万トンと予測される。



EUの生産量は、最大の生産国であるポーランドを含め、例年よりも多い落果と開花時の低温による受粉不良が見られたため、47万5千トン減の1,220万トンと予想される。しかし、フランスとスペインの生産量は昨年長引いた高温の影響からの回復により改善しており、品質は良好であると予想される。輸出量は、輸出品質の供給量の増加によりインド及び南米市場への出荷が増加することから、6万2千トン増の110万トンと予測される。輸入量はほぼ横ばいの25万トンと予測される。

トルコの生産量は、開花期の乾燥と成熟期の季節外れの降雨により、収穫量が減少し果実のサイズが小さくなるため、2014/15年度以来初めて減少し、11万8千トン減の490万トンと予測される。しかし、業界は引き続き近代化を進めており、生産者は果樹園を平面的な栽培システムに転換し、消費者が好む多収性の品種を植えている。供給量の減少により、輸出量は1万6千トン減の38万トンと予想される。

米国の生産量は、良好な生育条件により、昨年春の悪天候で被害を受けたワシントン州での回復に拍車がかかり、5万6千トン増の440万トンと予測される。農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2023年8月の作物生産レポートで米国のリンゴ生産量の予測を公表した。供給量の増加により、輸出量は米国産リンゴの最大の市場であるメキシコをはじめ大部分の市場向けで増加し、20万9千トン増の82万トンと見込まれる。インドによる米国産リンゴへの報復関税が2023年9月5日に撤廃されたことを受けて、同国への輸出も改善すると見込まれる。米国の輸入量は従来の水準にとどまり、南半球の輸出国からの出荷量の増加により微増の11万トンと予想される。



インドの生産量は、好天と栽培面積の維持により、240万トンで安定的に推移する見込みである。輸入量は、旺盛な消費需要の継続が、EU、アフガニスタン、トルコ等からの出荷を助長することから、5万トン増の41万トンと予測される。また、インドによる報復関税が2023年9月5日に撤廃された米国からの出荷も改善すると予想される。この追加関税は2019年6月から実施されていた。

南アフリカの生産量は、良好な生育条件と、新しい園地の成園化により、8万トン増の120万トンと予想される。また、降雹被害を受けた昨年よりも品質が向上すると予想される。生産者とその投資を信頼性の高い電源や水源の確保など投入材の管理にシフトさせるため、栽培面積の伸びは最小限に抑えられると予想される。生産量の増加と輸出可能な供給量の増加に支えられ、輸出量は5万5千トン増の65万トンと予測される。

チリの生産量は、栽培面積の長期にわたる減少傾向が続いているため、90万7千トンへとわずかに減少するものと見られる。輸出量は供給量の減少により、1万トン減の48万トンと予測される。

メキシコの実産量は、最大の生産量を誇るチワワ州で新植園地の成園化が続いていることで、81万2千トンの横ばいと予測される。チワワ州では栽培面積の拡大が続いており、他の州における郊外の開発やより収益性が高く水への依存度の低い作物への転換による継続的な減少を上回っている。輸入量は、米国からの供給量の回復により、1万8千トン増の25万トンと予測される。

ニュージーランドの実産量は2万トン回復して46万3千トンと予測されるが、果樹園がサイクロンガブリエルの被害からの回復途上にあるため、以前の最高値を下回っている。ホークスベイ地方とギズボーン地方では、ハリケーンによりかなりの数の果樹が失われたため、栽培面積の著しい減少が予想される。しかし、生き残った果樹は、通常の1年分の収穫が期待される。また、生産者は、労働効率と果実の品質管理を改善するための技術への投資を続けている。供給量の回復により、輸出量は1万トン増の32万トンと見込まれる。

2022/23年度の推計値の主な改訂点(前回の推計値からの変更)

世界の生産量は450万トン増の8,290万トンとした。

- ・ブラジルは、FAOの改訂データに基づき31万4,100トン増の130万トンとした。
- ・中国は、高温の後の予想以上の着果により、350万トン増の4,450万トンに引き上げた。
- ・メキシコは予想を上回る収量により、17万900トン増の81万900トンに引き上げた。
- ・モルドバは、FAOの改訂データに基づき16万7千トン増の64万7,700トンとした。
- ・トルコは、公式データの改訂に基づき19万7500トン増の500万トンに引き上げた。

世界の輸入量は3万5,800トン減の540万トンとした。

- ・ブラジルは、EUとアルゼンチンからの出荷量の増加により、3万トン増の15万トンとした。
- ・EUは、チリとニュージーランドからの供給量の減少により、4万7,400トン減の24万2,600トンとした。
- ・インドは、イランとEUからの出荷量の減少により、2万5千トン減の36万トンとした。

世界の輸出量は横ばいの550万トンとした。

- ・チリは、供給量の減少により9万5千トン減の49万トンとした。
- ・ニュージーランドは、サイクロンガブリエルの被害が予想を下回ったため4万トン増の31万トンとした。
- ・南アフリカは、雹を伴う嵐による被害が予想よりも少なかったため、6万トン増の59万5千トンとした。

<生食用ブドウ>

世界の2023/24年度の生食用ブドウ生産量は、中国の供給量の改善により49万トン増の2,840万トンと予測される。輸出量は、チリと中国の出荷量の増加が、トルコと米国の出荷量の減少を埋め合わせるため、ほぼ横ばいの370万トンと予想される。

中国の実産量は、良好な生育条件と栽培方法の改善により、75万トン増の1,350万トンと予測される。作物保護、植物育種、栽培、貯蔵技術への投資により、果実の品質が向上するだけでなく、供給期間が延長され、ほぼすべての省でブドウの生産が可能になった。輸出量は、供給量の増加によりアジア市場、特にインドネシアとベトナムへの出荷が増加するため、23%増の48万トンと予測される。高品質な国内産の増加が輸入

需要をさらに減退させるため、輸入量は5年連続で減少し、25%以上の下落となる13万トンと予測される。

インドの生産量は、適当な降雨と良好な生育条件により収量が増加し、果実の品質が向上するため、10万トン増の300万トンとわずかに増加するものと予想される。供給量の増加により、輸出量は最大市場のEU向け等で増加し、全体で1万3千トン増の29万5千トンと予想される。

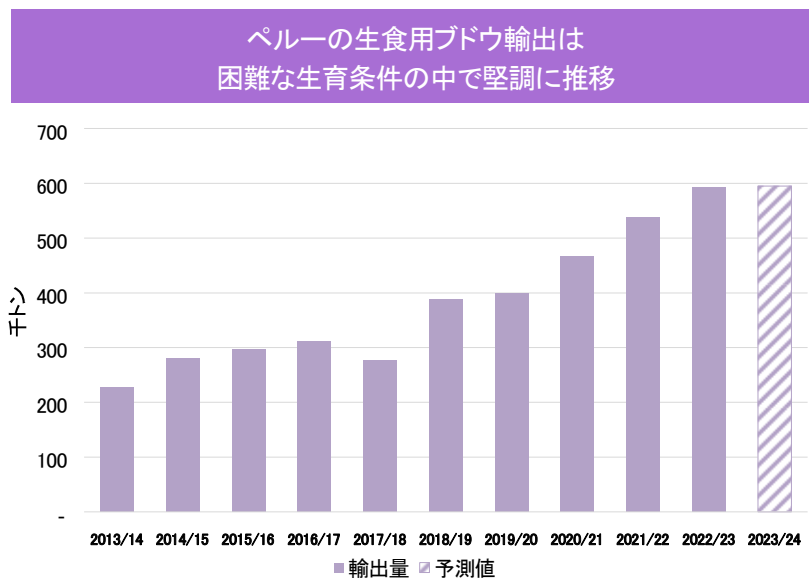
トルコの生産量は、主にエーゲ海地方で遅い降雨によりべと病が蔓延したため減収し、32万トン減の190万トンと予想される。供給量の減少により、輸出量は4万7千トン減の18万トンと予想される。

EUの生産量は、5月と6月の豪雨で最大の生産国であるイタリアが大きな損失を被ったため24万8千トン減の130万トンに落ち込むと予測される。しかし、7月の高温のため、EUの果実は全体的に優れた品質が見込まれる。運賃と輸送コストの高止まりにより、EU域内市場への出荷が促進され、供給量の減少と相まって、域外への輸出量は2万3千トン減の15万トンと見込まれる。輸入量は減産による需要増により、5万7千トン増の63万トンと見込まれる。

米国の生産量は6万7千トン増の87万8千トンと予測される。農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2023年8月の作物生産レポートで米国の生食用ブドウ生産量の予測を公表した。この調査は、8月下旬にカリフォルニア州を襲ったハリケーンヒラリーに先立つ6月に実施された。同局は、2024年5月に最終的な生産量を公表する予定である。輸出量は、輸出可能な供給量の減少により、3万7千トン減の21万トンと予想される。輸入量は、メキシコからの出荷量の記録的な増加が、販売年度の初め(5~4月)のチリからの供給量の減少を上回るため、微増の76万トンと予想される。

チリの生産量は、冬の豊富な降雨が収量を押し上げ、継続的な栽培面積の減少による損失を上回ったため、天候の悪かった昨年に比べて8万9千トン増の74万5千トンに急増すると予測される。供給量の増加により、輸出量は6万8千トン増の56万5千トンと予想される。米国はチリの最大の輸出市場であり、総輸出量の半分近くを占めている。

ペルーの生産量は77万6千トンで安定して推移すると見込まれる。ピウラ市周辺の北部地域では気温と湿度の高さにより、ブドウ園では真菌性の病害が発生しやすくなり、生産量が減少している。一方、南部のイカ市とその周辺では、より典型的な生育条件が生産量を押し上げ、北部の減収を補うと予想される。輸出量は、北半球市場で旺盛な需要が続いていることから、生産量と同様にほぼ横ばいで、59万5千トンと予測される。これが実現すれば、ペルーは引き続きチリを上回り世界最大の輸出国となる。



南アフリカの生産量は、雨と暑さの影響を受けた昨年の作柄から回復し、良好な生育条件と新しい品種の生産が始まることで2万4千トン増の34万2千トンと予想される。ブドウの木の上半分以上は樹齢9年以下と比較的若く、15%が2年未満で、90%以上が種無し品種である。輸出量は、供給量の増加に伴い2万5千トン増の31万トンと予測される。

オーストラリアの生産量は1万トン増で史上最高の22万トンと予測され、コロナ禍前の水準に完全に回復するものと見込まれる。雨の少ない春と夏の天候が豊富な灌漑用水と相まって、非常に良好な発芽と果房の

形成をもたらし、高い収量が期待される。輸出品質の供給量の増加により輸出量は9千トン増の14万トンと予想され、アジア市場への出荷の増加が見込まれる。

2022/23年度の推計値の主な改訂点(前回の推計値からの変更)

世界の生産量は55万3千トン増の2,790万トンとした。

- ・ブラジルは、FAOの改訂データに基づき31万2,600トン増の170万トンに引き上げた。
- ・中国は公式データの改訂に伴い15万トン増の1,280万トンに引き上げた。
- ・ウズベキスタンは、FAOの改訂データに基づき8万8,400トン増の170万トンに引き上げた。

世界の輸入量は1万6,900トン減の360万トンとした。

- ・EUは、チリからの出荷量が予想を下回ったため、1万6,900トン減の57万3,100トンとした。

世界の輸出量は2万3,700トン減の370万トンとした。

- ・チリは予想を下回る生産量で5万8千トン減の49万7千トンとした。
- ・インドは、ネパールとアラブ首長国連邦への出荷量の増加により、2万6,700トン増の28万1,700トンとした。

<生鮮ナシ>

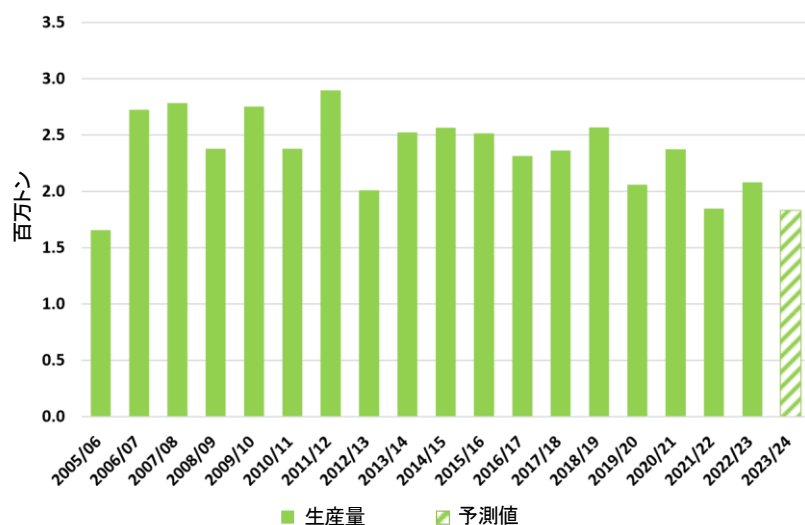
世界の2023/24年度のナシ生産量は、中国での増加がEUでの天候関連の減収を上回るため、30万トン増の2,520万トンと予想される。輸出量は、中国と南アフリカからの出荷量が改善し、8万9千トン増の180万トンと予測される。

中国の生産量は昨年の霜害から回復し、60万トン増の1,960万トンと見込まれる。主要生産省の生育条件が良好なため生産量が改善し、栽培面積の減少による損失を上回るものと期待される。農地(政府の規則で定義される)からの果樹の伐採を奨励または義務付ける政策により、栽培面積は徐々に減少し続けている。しかし、ナシの栽培が許可されている地域では、生産者は新技術や新品種に投資して絶え間なく農法を改善し、生産量と品質を向上させている。輸出は、国内生産量の増加により主要市場、特にインドネシアとベトナムへの出荷が増加し、20%以上の急増となる50万トンと予想される。輸入量は、南半球の輸出国の生産量の増加により、微増の2万トンと予測される。

EUの生産量は、最大の生産国であるイタリアでの大幅な減少により、24万9千トン減の180万トンと見込まれ、これは2021/22年度に近い水準で、2005/06年度以来の最低の生産量となった。イタリアの収穫量は、複数の気象災害により60%以上減少すると予想される。供給量の減少により、輸出量は2万1千トン減の32万5千トンとなり、輸入需要が増加し、輸入量は3万トン増の17万トンと予測される。

米国の生産量は58万3千トンの横ばいと予測される。カリフォルニア州での連続3年目の増加と、ワシントン州での増加が、オレゴン州での開花の遅れと集中及び暖かさと雨による火傷病の発生に伴う減収を埋め合わせると予想される。農務省農業統計局(NASS)は業界を調査し、2023年8月の作物生産レポートで米国のナシ生産量の予測を公表した。輸出量は、安定的な供給と主要市場であるメキシコとカナダへの出荷

EUのナシ生産量は悪天候で再び急落



の改善により、1万トン増の11万トンと予想される。輸入量は2014/15年度以来の高水準に回復し、9千トン増の8万トンと予測されるが、これはアルゼンチンからの出荷量の増加に、中国及び一部韓国からの出荷量の増加が加わったためである。

アルゼンチンの生産量は、好天により2年連続で増加し、2万3千トン増の62万5千トンと予想される。生産コストの上昇、都市化による栽培面積の減少、労働力の高齢化による農作業に必要な知識が豊富な労働者の不足により、生産者は圧迫されており、業界では統合が続いている。輸出量は、輸出可能な出荷量の増加により北半球市場へのお荷が増加するため、微増の32万トンと予測される。

南アフリカの生産量は、生育条件の改善により昨年の降雹被害からわずかに回復し、1万トン増の50万トンと予想される。栽培面積は引き続き増加するが、その速度は緩やかとなる。投入コストと輸送運賃が収益性を低下させており、ナン缶詰業界の将来に関する不確実性(GAINレポート [SF2023-0023](#)、南アフリカの果実缶詰貿易を参照)と相まって、生産者は新植への投資に慎重である。供給量の増加とEUの需要の増加により、輸出量は3万5千トン増の28万トンと予想される。

チリの生産量は減少傾向が続き、栽培面積の減少により1万トン減の20万2千トンと予測される。輸出量は供給量の減少により、10万5千トンまでさらに5千トン減少するものと予想される。

2022/23年度の推計値の主な改訂点(前回の推計値からの変更)

世界の生産量は120万トン増の2,490万トンとした。

- ・ 中国は河北省の霜害が予想を下回ったため、120万トン増の1,900万トンとした。

世界の輸入量は2万2,400トン増の170万トンとした。

- ・ EUは、南アフリカからの出荷量が減ったため、2万4,700トン減の14万300トンとした。
- ・ インドネシアは、中国からの出荷が予想を下回ったため、9,400トン減の15万600トンとした。
- ・ イラクの輸入量2万5,700トンが、2013/14年度からの新シリーズとしてデータベースに追加された。

世界の輸出量は2万6,200トン減の170万トンとした。

- ・ 南アフリカは、予想以上の降雹被害により輸出可能な供給量が減少したため、3万トン減の24万5千トンとした。

注意事項

欧州連合(EU)の定義: 関税同盟の27か国(オーストリア、ベルギー/ルクセンブルク、ブルガリア、クロアチア、キプロス、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイルランド、イタリア、ラトビア、リトアニア、マルタ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、ルーマニア、スロバキア、スロベニア、スペイン、スウェーデン)。

HSコード: 貿易データの集計は以下の統一コードによる。

- ・ 080610 - 生食用ブドウ
- ・ 080810 - リンゴ
- ・ 080830 - ナシ

販売年度:

- ・ リンゴ - 米国とメキシコの販売年度は8月から翌年7月。その他のすべて北半球の国は、7月から翌年6月。南半球の国々は、分割表示の2年目として示される年の暦年。
- ・ 生食用ブドウ - 米国とメキシコの販売年度は5月から翌年4月。他のすべての北半球の国は、6月から翌年5月。南半球の生産国のうちアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー及び南アフリカは10月から翌年9月、ブラジルは分割表示の2年目として示される暦年。
- ・ ナシ - 北半球の国々は7月から翌年6月。南半球の国々は、分割年の2年目として示される暦年。

品目別生産需給統計

リンゴ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 12月推計
生産量						
中国	33,000	42,425	44,066	45,973	44,500	45,000
EU	14,810	11,480	11,935	12,266	12,683	12,208
トルコ	3,600	3,620	4,300	4,493	4,968	4,850
米国	4,479	4,852	4,505	4,375	4,300	4,356
インド	2,371	2,370	2,300	2,300	2,400	2,410
イラン	2,241	2,241	2,241	2,241	2,241	2,241
ロシア	1,611	1,779	1,540	1,641	1,742	1,844
ブラジル	1,223	983	1,297	1,297	1,297	1,297
ウクライナ	1,154	1,115	1,279	1,279	1,279	1,279
南アフリカ	894	991	1,164	1,250	1,150	1,230
その他	6,467	6,810	6,620	6,321	6,374	6,394
合計	71,849	78,665	81,247	83,436	82,934	83,109
国内消費量						
中国	32,275	41,487	43,033	45,051	43,821	44,235
EU	13,839	10,659	11,175	11,448	11,893	11,363
トルコ	3,324	3,412	4,013	4,096	4,572	4,471
米国	3,884	4,098	3,838	3,759	3,788	3,646
インド	2,384	2,250	2,400	2,577	2,550	2,639
ロシア	2,323	2,455	2,259	2,216	2,079	2,129
イラン	1,916	1,423	1,286	1,334	1,695	1,511
ブラジル	1,246	1,028	1,250	1,392	1,412	1,417
ウクライナ	1,110	1,114	1,273	1,231	1,247	1,254
メキシコ	794	1,017	973	899	1,042	1,061
その他	8,534	9,189	9,177	9,208	8,601	8,924
合計	71,629	78,133	80,678	83,213	82,699	82,649
輸入量						
イラク	332	405	406	455	341	425
インド	277	194	377	448	360	410
英国	343	320	330	328	278	315
ベトナム	158	233	278	299	303	305
ロシア	795	763	796	587	347	295
EU	389	378	325	331	243	250
メキシコ	247	257	260	266	232	250
バングラデシュ	188	271	266	252	178	205
サウジアラビア	182	195	174	179	199	205
アラブ首長国連邦	150	171	175	211	190	200
その他	3,045	3,239	2,989	3,145	2,712	2,909
合計	6,106	6,425	6,375	6,502	5,383	5,769
輸出量						
EU	1,359	1,199	1,084	1,149	1,033	1,095
中国	818	1,042	1,102	997	774	845
米国	741	861	775	721	611	820
イラン	325	818	956	907	546	730
南アフリカ	469	509	589	625	595	650
チリ	674	660	644	603	490	480
トルコ	278	209	288	398	396	380
ニュージーランド	391	400	356	341	310	320
セルビア	184	206	185	165	110	170
モルドバ	251	217	150	253	123	140
その他	528	476	506	428	471	463
合計	6,018	6,596	6,634	6,587	5,461	6,093

米国とメキシコの販売年度は8月から翌年7月。その他のすべて北半球の国は、7月から翌年6月。南半球の国々は、分割表示の2年目として示される年の暦年。

生食用ブドウ 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 12月推計
生産量						
中国	9,900	10,800	11,450	11,980	12,750	13,500
インド	2,900	2,280	2,300	2,900	2,850	2,950
トルコ	1,950	2,050	2,220	1,857	2,220	1,900
ブラジル	1,486	1,436	1,748	1,748	1,748	1,748
ウズベキスタン	1,603	1,607	1,695	1,695	1,695	1,695
エジプト	1,350	1,385	1,170	1,470	1,560	1,568
EU	1,589	1,548	1,374	1,422	1,546	1,298
米国	997	905	871	826	811	878
ペルー	630	645	685	713	766	776
チリ	835	785	665	793	656	745
その他	1,159	1,302	1,293	1,308	1,296	1,331
合計	24,399	24,743	25,471	26,713	27,899	28,389
生鮮国内消費量						
中国	9,873	10,677	11,215	11,810	12,537	13,150
インド	2,356	1,803	1,830	2,285	2,256	2,360
EU	1,916	1,872	1,766	1,854	1,946	1,778
トルコ	1,771	1,845	2,006	1,595	1,997	1,722
ブラジル	1,455	1,394	1,677	1,703	1,699	1,705
ウズベキスタン	1,485	1,487	1,566	1,471	1,455	1,595
米国	1,199	1,252	1,227	1,281	1,311	1,428
エジプト	1,235	1,248	1,027	1,328	1,392	1,400
ロシア	307	308	369	405	440	328
英国	268	275	269	271	258	280
その他	2,098	2,158	2,214	2,213	2,143	2,192
合計	23,964	24,318	25,166	26,216	27,434	27,938
輸入量						
米国	571	672	670	713	746	760
EU	520	501	572	604	573	630
ロシア	290	288	351	380	409	300
英国	268	275	269	271	258	280
カナダ	179	189	191	184	178	175
ベトナム	101	113	147	99	141	150
タイ	124	131	140	103	136	145
中国	262	239	194	181	175	130
香港	259	238	201	119	116	120
インドネシア	112	94	101	100	105	120
その他	674	679	740	838	727	729
合計	3,359	3,418	3,577	3,592	3,565	3,539
輸出量						
ペルー	388	400	468	537	593	595
チリ	655	605	526	608	497	565
中国	289	362	428	351	389	480
南アフリカ	276	284	322	336	285	310
インド	250	185	267	275	282	295
メキシコ	147	224	207	196	209	230
米国	368	325	314	258	247	210
トルコ	179	205	215	264	227	180
エジプト	125	150	155	150	170	170
EU	193	177	180	173	173	150
その他	620	623	588	592	634	490
合計	3,490	3,540	3,669	3,739	3,705	3,675

米国とメキシコの販売年度は5月から翌年4月。他のすべての北半球の国は、6月から翌年5月。南半球の生産国のうちアルゼンチン、オーストラリア、チリ、ペルー及び南アフリカは10月から翌年9月、ブラジルは分割表示の2年目として示される暦年。

ナシ(生鮮) 主要国の生産需給統計(千トン)

	2018/19	2019/20	2020/21	2021/22	2022/23	2023/24 12月推計
生産量						
中国	14,000	17,314	17,815	18,876	19,000	19,600
EU	2,568	2,059	2,373	1,847	2,081	1,832
アルゼンチン	600	640	615	557	602	625
米国	726	645	593	589	583	583
トルコ	520	530	550	530	571	540
南アフリカ	413	438	461	540	490	500
インド	300	310	308	310	300	313
ロシア	242	290	247	240	235	230
日本	239	198	206	206	206	206
チリ	252	222	233	223	212	202
その他	547	586	487	564	605	554
合計	20,407	23,233	23,889	24,481	24,886	25,186
国内消費量						
中国	13,645	16,707	17,345	18,404	18,607	19,120
EU	2,305	1,823	2,172	1,684	1,875	1,677
米国	654	586	560	547	554	553
トルコ	478	479	477	436	482	465
ロシア	461	436	446	422	454	389
インド	288	327	330	338	328	347
アルゼンチン	291	300	301	283	287	306
南アフリカ	188	212	214	253	245	220
日本	237	197	205	205	205	205
インドネシア	145	236	196	215	151	185
その他	1,585	1,754	1,531	1,629	1,684	1,622
合計	20,277	23,059	23,776	24,416	24,871	25,090
輸入量						
インドネシア	145	236	196	215	151	185
EU	157	172	175	186	140	170
ブラジル	154	138	121	133	159	160
ロシア	261	194	241	183	220	160
ベトナム	63	133	97	101	96	110
ベラルーシ	118	119	112	78	108	105
英国	118	100	105	103	112	100
香港	85	76	81	77	80	80
メキシコ	92	84	73	72	80	80
米国	73	72	75	69	71	80
その他	442	509	473	503	485	479
合計	1,706	1,832	1,749	1,719	1,701	1,709
輸出量						
中国	366	619	480	482	410	500
EU	420	407	377	349	346	325
アルゼンチン	310	340	315	275	315	320
南アフリカ	226	227	247	287	245	280
米国	144	130	109	110	100	110
チリ	132	114	127	116	110	105
トルコ	42	51	73	94	89	75
ベラルーシ	70	16	54	27	50	45
韓国	27	31	19	24	30	25
オーストラリア	9	9	9	8	7	8
その他	15	15	11	11	15	12
合計	1,760	1,959	1,821	1,784	1,716	1,805

北半球の国々は7月から翌年6月。南半球の国々は、分割年の2年目として示される暦年。